



【資料2】雑記事の一部

「再生可能エネルギー」とは、「エネルギー源として永続的に利用できるものと法律に規定されています。使うとなくなる化石燃料とは異なるエネルギーです。「再生可能エネルギー」の主なものは、五種類あります。一つめは太陽光です。ソーラーパネルを使うことで太陽光から電気を作ることができます。二つめは風力です。風が吹くことで、どの地域でも電気を発電することができます。三つめは水力です。風が吹くことで、どの地域でも電気を発電することができます。四つめは地熱です。地中に蓄えられた熱水や蒸気を利用して電気を作ります。火山国である日本には、地表近くに地熱源があるため、安定的に熱水や蒸気を得ることが可能です。五つめは水力です。水が落下する時の力を使って電気を作ります。河川が多い日本では安定的な供給が可能です。六つめはバイオマスです。バイオマスとは、動植物などの生物資源のことを言います。木くずや家庭ゴミなどの捨てるものや使わないものを燃やして電気を作るので、資源の有効利用に役立ちます。

### 日本のエネルギーの現状と、再生可能エネルギー

日本のエネルギー自給率は、わずか6%

私たちの暮らしを支えているエネルギーは、石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料が中心です。いま、世界のエネルギー需要は急速に増加しており、エネルギーの94%を海外からの輸入に頼っている日本では、エネルギーの自給率の向上が大きな課題のひとつとなっています。そこで注目されているのが、日本の豊かな自然の手カラである、太陽や風、水、地熱、森林などの「再生可能エネルギー」を使って電気を作り出すことです。

■エネルギー自給率の国際比較

日本のエネルギー自給率 **6%**  
現在、日本のエネルギー自給率はわずか、6%のみ。これは諸国に比べて、とても低い数値です。

再生可能エネルギーの3つのベネフィット ※（注）ベネフィット・・・利点

- 01 日本のエネルギー自給率をアップ
- 02 日本の技術を活かし、新たな産業を創出
- 03 CO2排出が少なく地球にやさしい

01 太陽、風、水、地熱、森林といった日本にある自然の手カラを効率的に電気に変換し、エネルギーの自給率の向上につながります。

02 新しい電気技術を開発して、国際競争力を高めるだけでなく、最新の充電施設を建設することで、新たな産業を広げていきます。

03 化石燃料を使う場合と比べると、環境への影響を最小限に抑えることができ、地球全体の環境問題の解決につながります。

（経済産業省 資源エネルギー庁ウェブサイトによる。）

【資料1】ガイドブックの一部

五 山本さんは、社会科の学習で興味をもったエネルギー資源について調べました。そして、「未来を支える再生可能エネルギー」という発表資料を作成し、再生可能エネルギーについて調べたことを発表することにしました。次は山本さんが集めた二つの資料【資料1】、【資料2】を作成している【発表資料の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【発表資料の下書き】

★「未来を支える再生可能エネルギー」★

日本のエネルギーは何が問題なの？

現在、( A ) あり、このことが大きな問題となっています。

「再生可能エネルギー」って何？

「再生可能エネルギー」とは、現在広く使われている石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料のように、使うとなくなってしまうものではなく、( B ) です。

「再生可能エネルギー」を使うと、どんないいことがあるの？

ポイント1 日本のエネルギー自給率を向上させることができる。  
ポイント2 日本の技術を活かし、新たな産業を広げることができる。  
ポイント3 地球全体の環境問題の解決につながる。

主な「再生可能エネルギー」

種類	発電方法	良い点
太陽光	ソーラーパネルを使うことで電気を作る。	太陽の光があればいいので、どの地域でも発電することができる。
風力	風で風車を回して電気を作る。	風があれば夜でも発電することができる。
地熱	.....	.....
水力	( C )	( D )
バイオマス	.....	.....

2 【発表資料の下書き】の「再生可能エネルギー」って何？」では、「再生可能エネルギー」について、化石燃料との違いが分かるように説明しようとしています。( B ) に入る「再生可能エネルギー」についての説明を、具体例を挙げながら二十五字以上四十字以内で書きなさい。

(正答の条件)

次の三つの条件を満たしていること。

① 太陽や風、水、地熱、森林などの「再生可能エネルギー」の具体を挙げている。

② 「エネルギー源として永続的に利用できる」という趣旨の内容を書いている。

③ 二十五字以上四十字以内で書いている。

(正答例)

太陽や風、水、地熱、森林などをエネルギー源として永続的に利用できるもの(三十五字)

この問題は、再生可能エネルギーについて、資料を基に、化石燃料との違いが分かるよう、具体例を挙げて説明するものです。この問題を解くために重要になるのが、「化石燃料との違いが分かるように説明する」ということと、「具体例を挙げる」という、問題文に書かれた条件を理解し、それに応じて必要な情報を取り出し、要旨をまとめていくことです。なお、問題の趣旨や学習指導要領における指導事項は、以下のとおりです。



問題の趣旨

目的に応じて資料を読み、要旨を把握することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

[第1学年] C 読むこと  
イ 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

# 内容の系統

第1・2学年 読むことイ  
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。

第3・4学年 読むことイ  
目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

第5・6学年 読むことウ  
目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりに読むこと。

中学校  
第1学年 読むことイ  
文章の中心的部分と付加的部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。

## 解答類型と割合

解答類型		採点上の留意点	割合(%)	自校(%)
1	○ (例) 太陽や風、水、地熱、森林などをエネルギー源として永続的に利用できるもの (35字)	次の三つの条件を満たしていること。 ①太陽や風、水、地熱、森林などの「再生可能エネルギー」の具体例を挙げている。 ②「エネルギー源として永続的に利用できる」という趣旨の内容を書いている。 ③25字以上40字以内で書いている。	35.4	
2	× (例) 日本の豊かな自然のチカラである、太陽や風、水、地熱、森林など	条件①、③を満たしているが、条件②を満たしていないもの。	18.7	
3	× (例) 「エネルギー源として永続的に利用できるもの」として法律に規定されているもの	条件②、③を満たしているが、条件①を満たしていないもの。	24.0	
9	× 上記以外の解答		14.7	
0	— 無解答		7.1	

※ 「解答類型」の「割合」は、それぞれを小数点以下第2位で四捨五入して示しており、公表されている通過率や誤答率と誤差が生じる場合があります。

誤答を見ると、問題文に、「具体例を挙げながら」とあるにも関わらず、再生可能エネルギーの具体例を資料から捉えきれない生徒が一番多いことがわかります。自校ではどうでしょうか。数値を入れてみましょう。

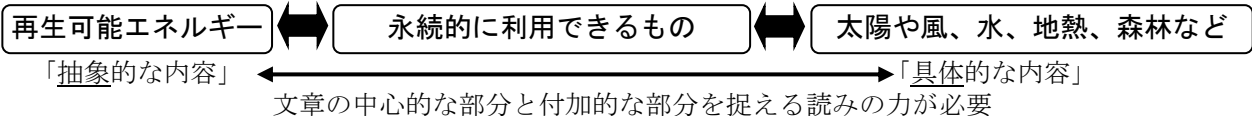


## 分析と課題

「化石燃料との違いが分かるように説明する」ためには、【発表原稿の下書き】にある化石燃料の説明を踏まえた上で、問題文の【資料2】にある「エネルギー源として永続的に利用できるもの」という情報を取り出す必要があります。誤答を見ると、このことができていなかった生徒が、18.7%いました。

一方、もう一つの「具体例を挙げる」ためには、【資料1】に書かれている「太陽や風、水、地熱、森林など」という情報を取り出すか、【資料2】から具体例を一つずつ取り出す必要がありますが、誤答を見ると、このことができていなかった生徒が24.0%いました。

【二つの資料から読み取らなければならない内容】



これらのことから、目的に応じて複数の資料を読み、文章の中心的部分と付加的部分を捉えながら、それらを関係付け、要旨をまとめていくことに課題があると考えます。

## 授業改善のポイント

- 複数の資料から何をどのように引用すればよいのかを判断したり、情報と情報の関連を考え、再構成して示したりする必然性のある言語活動を仕組みましょう。
- 資料を読ませる際には、生徒が、文章の中心的部分と付加的部分などについて、叙述を基に構造的に捉えることができるよう指導を工夫しましょう。